倉敷スイートタウン（岡山県）視察研修報告

新たなコミュニティモデルの先駆的取り組みを見聞

2019年12月16日、当協会は岡山県倉敷市にある医療法人和香会 倉敷スイートタウンにて視察研修を実施した。当研修では、倉敷スイートタウン内の各施設を見学するとともに、法人本部経営企画部長の金子聡氏に同タウンの取り組みについてご講演をいただいた。以下に、当研修で見聞した内容を報告する。

倉敷スイートタウンとは

倉敷スイートタウンとは、病院、サービス付き高齢者向け住宅、保育園、カフェ、レストラン、ビューティーサロン、コンビニエンスストア、多目的ホールなどが併設された複合施設の名称である。同タウンは、「心温まる想いやりあふれるコミュニティタウン」をコンセプトとして、常日頃から人が行き交う街づくりを目指している。

同タウンの1～3階に位置する病院「倉敷スイートホスピタル」は、1階に外来診療部門、画像・内視鏡検査室、処置室、手術室などが備わっており、2・3階が入院診療部門となっている。同院は、患者のプライバシーに配慮した設計となっており、処置室と病室は全室個室であり、プライベートな空間の中で治療に専念することができる。

4・5階はサービス付き高齢者向け住宅「倉敷スイートレジデンス」で、病院が併設された一生住み続けられる安心住宅となっている。各居室に設置された緊急コールは、病院の医師・看護師に直通しており、急病時は医師・看護師がすぐに駆けつける救命救急システムが整備されている。セキュリティ面も充実しており、関係者以外が許可なく入館できないように認証カードシステムが導入されている。展望風呂やカラオケ・シアタールームなども完備されており、充実した生活環境が提供されている。

インテリアデザインへのこだわり

タウン内を見学して最も驚いたことは、一見して高いデザイン性が見てとれるインテリアへのこだわりである。同法人理事長で日本医師会常任理事であり、日本介護医療院協会の初代会長を務められた江澤和彦氏が自ら手がけたものだという。

倉敷スイートホスピタル、倉敷スイートレジデ

倉敷スイートタウンの外観
1～3階：倉敷スイートホスピタル（196床）
4・5階：倉敷スイートレジデンス（130室）

全室個室の処置（点滴）室と病室

ユニットごとにインテリアデザインが異なる

病室・居室は全室デザインが異なる（居室の一例）

ンスともに、家庭的な空間の中で過ごせるように、1ユニット10人程度で設計されている。ユニットごとに廊下の壁紙や床などのデザインがすべて異なっている。病室・居室についても全室デザインが異なり、同じものは2つとない。

バリアフリー設備も充実しており、各病室・居室には収納型のテーブルが設置された自立支援型トイレがあり、握力が弱くなり手すりの使用が難しい方でも、テーブルに体重をかけることで身体の移動が可能となっている。この自立支援テーブルも、江澤理事長が考案したものである。共有スペースには、左右対称に設置されたトイレがあり、右片麻痺と左片麻痺のどちらでも使用できる設計となっている。

「職員にお願いすること」を明文化

倉敷スイートタウンでは、より良質なサービスの提供を実現するために、「職員にお願いすること」を明文化し、職員に周知している。その中の1つである「当たり前3原則」を紹介する（カコミ参照）。

当たり前3原則

1 お客様を自分自身あるいは自分の大切な家族などに置き換え、施されて好ましくないことがあれば、直ちに改善しましょう

1 自分の部署・病院・施設の都合はいっさい排除して、社会的・道徳的・人道的に正しいかどうかで判断しましょう

1 いつでも誰にでも堂々と全てをお見せできる仕事をしましょう

同タウン内には、お客様1人ひとりを思いやり、尊厳を大切にするための取り組みが随所に見られた。当研修は、魅力的なコミュニティタウンとはどういうものかを学べた大変有意義な視察研修であった。

最後に、当協会の視察研修を快くお引き受けいただいた倉敷スイートタウンの皆様に、心より御礼を申し上げ、本報告を締めくくる。

（当協会 教育研修委員　太田 佑馬）

病室・居室のトイレは収納型のテーブルが設置された自立支援型トイレ

共有トイレは左右対称に設置